

昭和の南海地震体験談

氏名: 吉田 元重(よしだ もとしげ)
生年月日: 昭和5年4月27日
地震を体験した場所: 由良町・自宅寝室
当時の家族状況: 母、兄嫁



1) 地震発生時の状況

当時16歳で、旧制中学生だった。ちょうど期末テストが終わった頃で、自宅寝室で就寝中の事だった。地震の揺れで机の上に置いていた花瓶が倒れ、その水がかかり、目が覚めた。その時地震だと認識したが、船に乗っているような感じで左右にゆっくり揺れていて、立つこともできず、布団に入ったまま揺れが収まるのを待った。時間的に長かったとも思う。

2) 津波襲来時の状況

中学1年生の時に、静岡付近の地震で、船に乗ったようなゆっくりした横揺れと、その後に運動場に来た津波を経験しており、揺れ方が同じだったので怖いと思い、海を見ようと家の前を出た。まだ暗かったが近所の人達も外に出ていた。しばらく海の様子を見ていたが、夜光虫がピカピカ光り、風もなく静かだったので、もう一度眠ろうと自宅に戻った。すると、遠くの方から「津波やー！！」と言う女の人の声が聞こえてきたので表に出たら、既に水がひざの高さまで来ていた。驚いてすぐ近くの高台の畑まで避難した。1回目の波が来て、引いた時に、飼っていた牛を田んぼへ避難させた。家族のいる畑に戻り、近所の人4~6人と焚き火をし、暖を取った。大きな津波は4回程来て、3番目が一番大きかったように思う。夜が明け、明るくなって海を見てみると、由良湾の中は、家やゴミや材木等を巻き込んで、右回りに渦を巻いていた。女の人が1人、船に乗って流されていた。「助けてー」と叫んでいたが、速いスピードで回っており、どうすることもできず、引き潮で沖に流されて行くのを見ていた。引き潮では今までに見たことのない砂浜が見えた。

3) 家族の行動・被害

家族は一緒に高台の畑に避難した。十分に明るくなった頃に水が引き、自宅に戻った。タンスの引き出しの下から3段目(床上70cm程度)まで濡れた跡があったが、流失した物は無かった。農業を営んでいたが、備蓄していた米が塩水に浸かり、食べられなくなった。

4) 集落・周囲の被害

湾の奥で何人か亡くなっている。通っていた耐久中学校の校長夫人が亡くなった。船で沖に流された女の方は助かった。耐久中学校は窓ガラスが割れ、道具が流失していた。教室に泥

が溜まっていた。運動場にぐるりと植えられていた松林に、大きな船が2隻引っかかっていた。海に面したところに松林が無かったら、校舎に向けて船が流れて来て、被害がもっと大きくなっていただろう。

5) 地震・津波後の生活

井戸も食料も塩水が入り、全て口にできなくなった。近所の打込みポンプの井戸を借り、食料は親戚が持ってきてくれた。地区の青年団による夜警があり、昼は家や学校の片付けをし、夜は夜警をして、大変な生活だった。



6) 次の災害への備え

井戸のある高台の土地に引っ越した。水道も引いているが井戸水も活用し、大切に維持している。屋根を軽くして、重みで家が潰れないようにしている。カンパンを常備している。とにかく避難して津波解除になるまで自宅には戻らないこと。

地域に対しては、南海地震を体験し、得た教訓で、海岸や川筋に植樹して、自然の防波堤を造りましょう、と働きかけ、二次災害を減らせれば良いと考えている。